

照陽の家だより

〒683-0812
米子市角盤町3-124-3
TEL 0859-21-8151

立春も過ぎよいよ「暦の上では春」と呼ばれる時期となりました。立春は二十四節気において春の始まり、1年の始まりとされる日で北京2022オリンピック冬季大会開会式(2/4)では「Spring」というスペルの花火が打ち上げられ新しい春の到来が華やかに告げられました。輝く「Spring」というスペルがあまりにも長い自粛生活に心身ともに疲れ切った私達の心をひと時、吹き飛ばしてくれたように思ったのは私共だけでしょうか?さて、照陽の家だより1月号で茨城県の県立高校生からインタビューを受けたと紹介しましたがこの度、市長の前でプレゼンした様子がDVDにして送られてきました。高校生たちの企画提案を市のトップの方々が受け止められる様子は2社の新聞でも報道されたとの事です。「下妻プロジェクト～地方創生の観点から下妻市をmuch betterに!～」と題した発表会で茨城県立下妻第二高等学校の鈴木さん、中山さん、小谷野さんは鳥取ふれあい共生ホーム 照陽の家を事例として取り上げ、そこから既存の施設を利用し幼老複合施設とする事で人間関係の再構築や地域の活性化をソフト面から図り住み続けたい街作りについて自分たちの考えを堂々と述べていました。彼女たちのような若い人々が自分の故郷をいかにしたらより良くなるのか、様々な視点から当事者として考える姿勢に触れ改めて勇気を頂きました。2030年はもう目の前です。若い世代が新しい生活様式の中で新しい時代を作っていくくれる事を実感したひと時でした。

施設長 三代 富士子



令和3年度 ケアサービス米子事例集 発行しました。!!

- 照陽の家からは
- ①正しく知って正しく恐れる
～ 新型コロナウイルス感染症を知ろう ～ (訪問看護STハートケア)
 - ②医療依存度が高い方の独居での地域生活とは?～ 24時間体制の重要性と課題
(看護小規模多機能型居宅介護 照陽の家)
 - ③保育所における保護者支援を考える ～小規模保育だからできること～
(米子市地域型小規模保育 ひなたぼっこ保育園)



節分 立春大吉

2月3日、節分の行事をしました。まずは鬼のお面に向かって豆まきをしていると、青鬼さん登場にびっくり!怖かったけど、泣き虫鬼や怒りんぼ鬼、わがまま鬼、みんなを困らせるコロナ鬼!お腹の中の鬼を頑張って退治し、その後みんなでポーロを食べました。豆まきが終わると「もうおにいないよ」と、何事にも意欲的に動く姿が、とても素直で微笑ましかったです。



今年もコロナ禍で子どもたちと一緒に鬼退治が出来なかったですが、出来る限り豆(紙のボール)を鬼に向かって投げて頂きました。昔、豆まきをしたことを思い出され楽しい会話が出来ました。



照陽の家は住み慣れた地域において、高齢者の方、お子様、地域の方、誰もが集い、多様なサービスや活動の中で支え合う拠点です。

ひなたぼっこ保育園の日常

クッキングでばたもち作りしました。ぺったんぺったんと言いながらごはんをつぶし、ラップに包んであんこと一緒にかわいい手でコロコロぎゅっぎゅっと握ると、おいしいばたもちのできあがり♡春が待ち遠しいです。



冬野菜の収穫です。はらぺこあおむしが食べてしまった外葉をむくと、中からきれいな白菜が出てきました。寒い冬をじっと乗り越えてあま〜くなった野菜を早速サラダや、素揚げにもらって給食でいただきました。



節分の鬼作りです。自分で切った折り紙を貼ってカラフルに仕上げました。可愛くて楽しい鬼さんたちの出来上がりです。